

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 72号

2013/11/4 発行  
株式会社 立花商店  
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：先週末からほとんど大きな動きなく、狭い範囲内でのな動き。

①週最高：3月 LDN 市場£1,704 /12月 NY 市場\$2,684 (10/31、10/28) 先週比 **LDN - £40 / NY - \$85**  
②週最低：3月 LDN 市場£1,690 /12月 NY 市場\$2,651 (10/30,11/1) 先週比 **LDN - £12 / NY - \$35**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£14 (傾向→) / NY 市場\$33 (傾向→)  
週内建玉推移：LDN市場 238,113枚(10/25終了時)⇒237,173枚(10/31終了時) **-940枚**  
NY市場 226,683枚(10/25終了時)⇒224,698枚(10/31終了時) **-1,985枚**

#### 【10月28日(月)】反落

反落。ニューヨーク市場の12月きりは、29ドル(1.1%)安の**2684ドル**で終了。テクニカルな売り圧力に加え、コートジボワールにおける収穫期の好天が重しとなった。

過去約3週間における14日間相対力指数(RSI)は、テクニカル的に買い過熱感を示唆する70付近で推移していた。

ロンドン市場の3月きりは、17ポンド安の1701ポンドで引けた。

#### 【10月29日(火)】両市場とも続落

ニューヨーク市場のココア先物は続落した。12月きりは25ドル(0.9%)安の2659ドルで終了。同限月は一時、約2週間ぶりの安値となる2653ドルに触れる場面も見られた。22日には2年超ぶりの高値となる2780ドルに上昇していた。

シティーグループ(シカゴ)の先物専門家、スターリング・スミス氏は「大量のロングポジションが積み上がっており、ポジション解消や利食い売りが起きやすい状況となっている」と指摘した。

収穫期における好天が重しとなった。コートジボワールの乾燥天候は収穫には好ましい条件となっている。

ロンドン市場の3月きりも続落。一時、2週間超ぶりの安値となる1681ポンドまで値を下げたが、5ポンド(0.3%)安の1696ポンドで引けた。

【10月30日（水）】NYは上伸

ニューヨーク市場の12月きりは1ドル（0.4%）高の2660ドルで終了。需要の伸びを示す内容の圧砕高統計が相場を下支えた。

ロンドン市場の3月きりは6ポンド（0.4%）安の1690ポンドで引けた。

【10月31日（木）】ニューヨーク、続伸＝ロンドン反発

ニューヨーク市場の12月きりは続伸、12月きりは17ドル（0.6%）高の2677ドルで引けた。

ロンドン市場は反発。3月きりは14ポンド（0.8%）高の1704ポンドで終了した。

【11月1日（金）】両市場とも反落

ニューヨーク市場の12月きりは反落し、26ドル（1%）安の2651ドルで終了した。西アフリカ地域の収穫進展が相場を圧迫した。

ロンドン市場の3月きりも反落、2ポンド（0.1%）安の1702ポンドで引けた。

## **2、コートジのカカオ豆着荷量、27日時点で16万3000トン＝輸出業者推計(10/29)**

輸出業者が28日推計したところによると、今年度（2013年10月～14年9月）のコートジボワールのアビジャン、サンペドロの2港のカカオ豆着荷量は27日時点で、約16万3000トンと、前年同期の8万7000トンを上回った。10月21日～27日の1週間の2港の着荷量は約5万7000トンと、前年同期の3万6000トンに比べて増加した。

## **3、コートジボワールのカカオ豆産地、降雨と日照で生産見通しが改善(10/29)**

コートジボワールのカカオ豆農家とアナリストが28日語ったところによると、同国のカカオ豆産地の大半では最近、降雨と日照が理想的な天候に恵まれ、メインクropp（今年10月～来年3月）の生産見通しが改善した。これにより、供給不足に陥るとの懸念が後退している。

同国では乾期が長引くと予想やサハラ砂漠からの強い季節風のため、生産高や品質に悪影響が出るとの懸念がくすぶっていた。

ただ、高地の農家によれば、最近の雨で収穫が順調に進む一方、良質なカカオ豆が大量に生育。この降雨は主に来年1～2月の収穫に寄与する見通しという。

東部アベングル郊外の農家は「収穫に向け、全てが順調に進んでいる。カカオ豆を乾燥させる日照時間が長いと心配はしていない」と語った。西部ドゥエクエ近郊の農家は「樹木には12月まで収穫できる多くのサヤが付いている。メインクroppは昨年と比べて良好な状態だ」と説明した。

## **4、コートジ 2012/2013 シーズンのカカオ製品輸出は前年対比 15%増加(10/31)**

2012年10月から2013年9月末までのカカオシーズンにおいてコートジのカカオ製品（カカオマス、ココアバター、ココアパウダー等）は前シーズン対比15%増加の381,621トンだったことが港湾の統計データより判明した。

世界最大のカカオ生産国のカカオシーズンは10月から9月の期間で展開される。2008年からの同国のカカオ磨砕工場への大規模な設備投資は、国内でのカカオ豆磨砕（加工）シェアを急速に押し上げた。

2010年には同国は、532,000 トンのカカオ磨砕製造能力となり、それまで世界で最大の磨砕可能数量であったオランダを超え、カカオの磨砕（加工）能力でも世界第1位となった。同国内にある工場は主にカカオ豆をココアバターとカカオパウダーに製造している。

現在、コートジではカカオ生産数量の35%程を国内で磨砕しているが、2012/2013 シーズンから開始した産業構造改革での方針として、今後は130万トンある国内の収穫量の50%を国内で磨砕することを目標としている。

下記は、2012/2013 シーズンのカカオ製品の輸出数量（トンベース）の統計。

<u>製品輸出数量</u>	<u>Sept 2013</u>	<u>Aug 2013</u>	<u>Sept 2012</u>
Abidjan	18,883	18,086	19,268
San Pedro	10,725	10,558	6,041
月間合計	29,608	28,644	25,309
年間合計(10月～)	381,621	352,013	332,370

### 5、コートジからの2012/2013カカオ豆輸出数量は前年対比4.5%増加（10/31）

2012年10月から2013年9月末までのコートジからのカカオ豆の輸出数量は合計で1,053,121トンとなり、前シーズン対比で4.5%の増加であったことが港湾の統計データより判明した。

2012/2013 シーズンは、農家からの最低買い取り価格を保証することを目的として多面的な業界構造改革を実施している中から開始された。

下記の数字は、コートジボアールの主要な港であるサンペドロ港とアビジャン港から輸出されたカカオ豆の公式な輸出数量（トンベース）である。

	<u>Sept 2013</u>	<u>August 2013</u>	<u>Sept 2012</u>
Abidjan	6,445	4,612	12,052
San Pedro	15,748	5,387	24,875
月間合計	22,193	9,999	36,927
年間合計	1,053,121	1,030,928	1,008,112

### 6、アジア市場：バターは7年半ぶりの高値レシオから緩和、スラウェシの収穫に注目（10/31）

Prompt butter ratios fall from 7-year peak to 2.70 times Mid-crop has yet to start in Sulawesi due to weather NY cocoa to rebound to \$2,689-technicals (記事の全文)

シンガポールのトレーダーからの情報では、チョコレートメーカーのクリスマス需要での買付けも終了しココアバターの高値には少し緩和傾向が見られ始めているが、いくつかの企業では来年の積み時期の価格提示を停止している企業もあるようだ。

また、カカオ豆の市場ではインドネシアの主要なカカオ豆産地であるスラウェシ島のミッドクロップが天候不順によりまだ始まっていないとのこと。世界第3位のカカオ豆生産国のインドネシアではミッドクロップが年間生産数量の約25%を占める。

現在、ココアバターレシオは11月-12月荷渡し分でロンドン先物市場価格に対して、2.7レシオで案内さ

れており、1週間以上前に7年ぶりの高水準に達していた2.8レシオからは下がってきており、来年荷渡しのココアバターについては需要がまだ強くないこともあり2.7より更に低いレシオでの取引がされているようだ。

『来年1月-6月荷渡し分のココアバターは今週2.65レシオで取引されており、"現在アジアの箱入りココアバターは欧州産の溶解済みココアバターの価格差は非常に狭くなっている。欧州での1月-3月荷渡し分の溶解済みココアバターの価格は2.74レシオだ』

ICCOはインドネシアでは古いカカオの木が多く生産性が低いことから2013年9月に終了したシーズンでは事前の収穫数量の予測を5%下回る45万トンになると発表している。

南スラウェシの州都であるMakassarのカカオ豆ディーラーは『ミッドクロップはまだ始まっていないよ、昨年を通じて天候が良くなかったし、雨が異常に降ったり、時には異常なほど暑くなった影響で収穫は遅れている』

『11月には農園でカカオ豆が見れるかもしれない』

ミッドクロップは通常10月から開始して12月か1月頃まで続く。メインクロップは通常4月に始まる。

インドネシアカカオ協会では、2013年1月~12月のカレンダーイヤーではインドネシアの生産数量は11%上昇し50万トンに達すると予測している。

インドネシア産は伝統的に、米国、ブラジル、シンガポール、マレーシア向けに販売されているが、最近では政府がカカオ豆の輸出関税を上げて、国内のカカオ豆磨砕数量を増強させ、より国内で自国産のカカオ豆を加工、消費していこうという方向に変化してきている。

### 今週の関連記事：スーパーでコーヒー豆を試験販売へ＝クラフト社と協力ー米マック(11/1)

米ファストフード大手マクドナルドの広報担当者は31日、同社のコーヒー関連商品のブランド「マックカフェ」の袋詰めコーヒーを、来年米国のスーパーなどで試験的に販売する計画を明らかにした。最近の売り上げ伸び悩みを受け、新たな販路開拓を図る。

試験販売は米食品大手クラフト・フーズ・グループと協力して実施。スーパーなどの小売店舗で袋入りの粉末状のコーヒー、豆のままのコーヒーのほか、コーヒー1杯分を抽出するタイプのコーヒー商品を販売する。同広報担当者は「マクドナルドは定期的にこのような試験販売を行っている。市場と消費者の反応（に関する情報）を集めるのが狙いだ」とコメントした。

**\*特徴的なチョコレート**を毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらも何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

\*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545      w-ikuta@tachibana-grp.co.jp